監査結果報告書

2022年5月30日

社会福祉法人保健福祉の会　殿

監　事　北田喜美代　㊞

監　事　佐藤　晃敏　㊞

私たち監事は、社会福祉法第40条および関連法に基づき2021年度（2021年4月1日から2022年3月31日）の監査を以下のとおり実施しましたので報告します。

監査日時　2022年5月26日（木）9時30分～16時15分
監査場所　都和のはな3階会議室
立 会 人　塩見法人常務理事、坪田老健西の京事務長、猪熊特養都和のはな施設長、和田グループホーム都和のはな管理者、京藤青い空保育園園長、福田洛西保育園園長、谷川あらぐさ保育園園長、竹山白い鳩保育園園長、竹内児童支援事業部長、川原法人事務次長、田村法人事務員、松山西の京事務員

監査結果

1．社会福祉法人保健福祉の会の2021年度の財産目録及び損益計算関係書類の点検照合を行いました。違算なく合致しており適正に処理されていることを認めます。

2．法人および各事業所
（1）法人の結果
前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応に追われる厳しい状況のなか、利用者、職員の安全を守るため奮闘している役職員の皆様に敬意を表します。
2022年度以降の保育事業における補助金削減により、厳しい状況が予測されますが安定的に経営を維持するために奮闘されることを期待します。
2021年度の法人合算では、当期活動増減差額7,678万円の黒字となっています。前年度よりも減益となるものの予算を上回る黒字を確保しています。事業毎では、介護事業で772万円、保育事業3,470万円、児童支援事業2,944万円と3事業分野すべてでの黒字となりました。
事業活動のサービス活動収益は15億7,852万円となり、前年より784万円（100.5%）の増収で予算に対しては3,162万円（102.0%）の超過となっています。事業毎には、介護事業1,140万円（前年比101.5%）の増収、保育事業▲1,004万円（前年比98.5%）の減収、児童支援事業648万円（前年比104.8%）の増収となっています。
資金収支差額合計では、1,757万円の黒字となっています。今期の固定資産取得は、パーチェ・第二パーチェの土地・建物取得を含め総額で1億5,359万円となっています。又、将来への準備として積立を4,500万円行っています。取得手続き、資金も事業活動資金収支差額や設備資金積立の取り崩し、借入金8,000万円で対応しており適切です。
財政面では、総資産は、27億9,277万円で前年度より1億1,405万円の増加となっています。固定資産は、取得資産、積立金等の増加、減価償却の差引で1億1,272万円の増加となり、負債は、5億9,482万円で前期より5,780万円の増加となっていますが大きな投資があったことを考えると安定しているといえます。各施設は、建設後長期が経過し老朽化が進行しており、計画的に対応を進められたい。
法人運営では、理事長、常務理事の交代がありました。また、児童支援事業部長の交代もありました。理事会や評議委員会の増員をはかり審議の充実をめざしました。定期に介護事業部会・保育事業部会・児童支援部会が開催され、効率的な運営が行われています。

（2）各事業所・施設の結果

2021 年度も、介護事業・保育事業・児童支援事業の安定的な運営、利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供や幹部職員の配置と育成・職員の育成と労働条件の整備をかかげとりくんできました。以下は、各事業分野での取り組みの結果です。各分野とも共通して新型コロナウイルス感染症の影響をうけています。

① 介護事業

特養都和のはなでは、共用型認知症対応型通所介護の施設基準を所得しました。ショートステイの利用は低下しており、近隣居宅介護支援事業へ案内を続けています。老健西の京は、平均ベット稼働率 94.1%を維持し、在宅復帰率 50%以上を確保、2022 年に超強化型の算定が可能となっています。また、2021 年の介護報酬改定では、全職員が協力しLIFE の算定を実現しています。グループホーム都和のはなは、ベッド利用率は 98.2%となりました。入所者の介護度アップや平均年齢の上昇による安全管理とベットコントロールが課題です。また、コロナ渦での家族面会の制限・禁止や行事の中止も運営上の課題となっています。ケアステーション虹の家は、管理者が産休・育児休業となり、新たに管理者の任命をおこない対応してきました。そのような状況のなかでも訪問介護の件数については平均 40 件を確保しています。

決算の特徴は、サービス活動収益で、特養都和のはなは、前年比 104.3%の増収、老健西の京は 101.5%の増収、ＧＨ都和のはなは 105.2%の増収、虹の家は 81.0%の減収、合計で 101.5%、1,140 万円の増収となっています。当期活動増減差額は、特養都和のはなは▲255 万円の赤字、老健西の京は 995 万円の黒字、ＧＨ都和のはなは▲18 万円の赤字、虹の家は 51 万円の黒字ととなり、合計で 772 万円の黒字となっています。

② 保育事業

各園とも、前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症に関する、感染対策、保護者や職員対応、行事の見直しなどを随時行っています。すべての保育所でコロナ対応による休園がありました。

各園の入園状況は、1 か月平均で、白い鳩保育園 121 名、洛西保育園 131 名、あらぐさ保育園 59 名、青い空保育園 74 名となっています。白い鳩保育園では、115 名のスタートでしたが 11 月に定数を確保しましたが、経営的には厳しい状況が続いています。洛西保育園は、園長交代がありました。乳児の数が少なくクラス編成を変更して対応しています。あらぐさ保育園では、０歳児の受け入れは５月には１０人となり職員体制も安定していました。オンラインによる保育の写真の提供や販売を実施しました。青い空保育園は、各行事を少人数での実施に切り替え、保護者とも共有できるように工夫してきました。

決算の特徴は、サービス活動収益で、白い鳩保育園、前年比 97.3%の減収、洛西保育園 95.4%の減収、あらぐさ保育園 105.9%の増収、青い空保育園 98.4%の減収となっています。当期活動支差額は、白い鳩保育園▲435 万円の赤字、洛西保育園 1,502 万円の黒字、あらぐさ保育園 1,192 万円の黒字、青い空保育園 1,211 万円の黒字、合計で 3,470 万円の黒字となっています。

③ 児童支援事業

報酬改定により、個別サポート加算 1 が導入され算定することができました。予算よりサービス活動収益が大きく増加した要因です。パーチェでは、鹿児島県からの療育希望者の受け入れを行政と折衝し受け入れをおこなっています。第二パーチェでは、オンラインでの療育を実施しています。パーチェ梅小路では、体制加算がとれず収益確保に苦慮しました。児童相談支援は、体制が２名となり、セルフプランでの対応にならざるをえない状況もありました。利用者状況は、パーチェ年間 3,074 名（1 日当たり 10.6 名　前年度比 100.0%）、第二パーチェ年間 2,725 名（1 日当たり 9.5 名　前年度比 105.6%）、パーチェ梅小路年間 2,644 名（1 日当たり 9.1 名　前年度比 103.4%）相談支援パーチェ計画相談 222 件（月平均 18.6 件、前年度比 74.3%）モニタリング 195 件（月平均 16.3 件、前年度比 70.9%）となっています。

サービス活動収益では、パーチェは前年比 109.6%、第二パーチェは前年比 111.7%、パーチェ梅小路 98.6%、相談支援パーチェ 77.7%、合計で前年比 104.8%、648 万円の増収となっています。

当期活動増減差額は、パーチェ 1,344 万円の黒字、第二パーチェ 789 万円の黒字、パーチェ梅小路 698 万円の黒字、相談支援事業パーチェ 112 万円、合計で 2,944 万円の黒字となっています。

以上